

2023 年を迎えるにあたって
#foolproof の考え方が大切

教育を受けていない方でも避難出来る事

2023 年 1 月 1 日
食品安全教育研究所
代表 河岸宏和

<http://ja8mrx.o.oo7.jp/koujyou1.htm>



人間の本能で避難出来ることが大切

●「他山の石」から学ぶ事

2022 年 2 月に新潟の菓子工場で、多数の死亡者がでる火災が発生してしまいました。

9 月にも、広島の商品工場で火災が発生しています。

私も、食品工場の火事の燃えている現場、消火後の復旧の現場に何度か立ち会った事が、ありますが、亡くなられた方が出た現場には立ち会った事は、ありません。

報道によると、新潟の工場は、深夜の火災だったため、避難経路がわからずに、防火シャッターのそばで亡くなられていたとあり、防火シャッター等に蓄光の工夫があれば防げた死亡事故と思うと、非常に残念です。

火災が発生したときには、初期消火にあたるのと、まず、逃げることを日常的に、従業員教育することが大切です。

新潟の工場では、消防で把握している火事だけでも、過去に 8 回、従業員の話だと、小さなボヤも数多く発生していたようです。小さいひやり事故のうちになぜ、対策を取らなかったのか非常に残念です。

新潟の死亡事故を他山の石として、オーブン、フライヤーなどの加熱設備には、自動消火装置の設置を検討してみませんか。

●避難経路の確認

食品工場の現場で「非常口」の看板があり、避難経路になっているけれど、その先は出入り口が封鎖されている工場に何度か行った事があります。

虫が侵入するとの理由で非常口自体が開かなくなっている場合、外部侵入者を防ぐためにチェーンでロックしている場合などがあります。

非常口は火事などの場合の避難経路になりますので簡単な方法で鍵を外して避難できるようにしておくことが重要です。神戸市のように、非常ドアはすべて、緑色に色をつけ、鍵なども自働で外れるようになり、人間の本能に基づいて、避難出来るように考えることが大切です。教育を受けていない方でも、パニックになっても対応出来る事が必要です。

非常シャッターが自動で閉まった場合、避難ドアの開け方、どこにあるかなど、停電した場合でも、避難口にたどり着けるように、蓄光の蛍光灯、照明、シールなどの設置を行うことが必要です。

実際に、日が落ちてから、照明を消して、避難経路が判明するか確認することをお勧めします。

従業員教育を行っていない方でも、人間本来の本能に従って、避難出来る仕組みが重要になります。

避難経路を含め、工場点検を実施してみませんか。

2023年は、労災は必ずゼロにする取り組みを考えて見ませんか。

連絡先

<http://ja8mrx.o.oo7.jp/koujyou1.htm>